

# Economic Indicators

発表日: 2023年5月31日(水)

## 景気動向指数(2023年4月)の予測

～足踏み状態が続く～

第一生命経済研究所

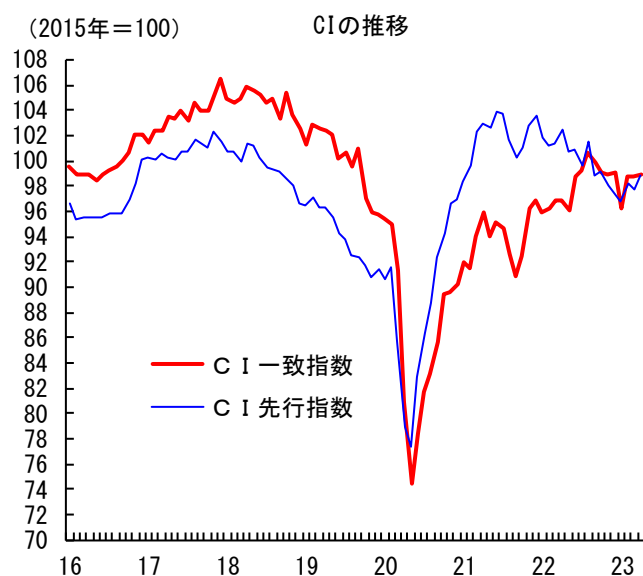
シニアエグゼクティブエコノミスト 新家 義貴

(TEL: 050-5474-7490)

### 横ばい圏での推移が続く

内閣府から6月7日に公表される2023年4月の景気動向指数では、C I一致指数を前月差+0.2ポイントと予想する。内訳では、小売業販売額や鉱工業生産指数などがマイナス寄与になる一方、輸出数量指数が押し上げ要因となり、C I全体では小幅プラスとなるだろう。

C I一致指数は3ヶ月連続の上昇が予想されるとはいえ、上昇幅はごく僅かで回復感はない。プラスの過去3ヶ月を振り返っても、2月(前月差+2.5ポイント)は1月(前月差▲2.9ポイント)の落ち込みからの反動に過ぎず、3月(前月差+0.1ポイント)、4月(同+0.2ポイント)もゼロ近傍にとどまる。昨年秋以降、均してみればほぼ横ばいでの足踏みが続いている状況に変化はみられない。



(出所)内閣府「景気動向指数」

(注)直近の2023年4月は第一生命経済研究所による予測値

### 目先、足踏み状態が続く見込み。鉱工業指数の基準改定に注意。

4月のC I一致指数の基調判断は、5ヶ月連続で「足踏み」が予想される。内閣府による「足踏み」の定義は「景気拡張の動きが足踏み状態になっている可能性が高いことを示す」である。

先行きについても、当面回復感に欠ける状態が続く可能性が高いとみている。C I一致指数と関連が深い鉱工業指数でも、5月の製造工業生産予測指数の経済産業省試算値は前月比▲2.6%と、下振れが見込まれている。供給制約の緩和による挽回生産で自動車生産は好調に推移する可能性が高い一方、海外経済の減速に伴う輸出の下振れが足を引っ張り、全体としてみれば当面足踏み状態から脱することは難しいだろう。

なお、C Iを見る上で一つ注意しておきたいのが、6月20日に公表が予定されている鉱工業指数の基準改定である。基準年がこれまでの2015年から2020年に切り替わり、ウェイトの変更や季節調整運用方法の見直しなどが実施される。C I一致指数の採用系列には鉱工業指数関連のものが多く含まれているため、遡及改定によって数字のイメージが多少変わる可能性も否定はできない。技術的な話ではあるが、注意しておきたい。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。